

<2021年7月17日「多文化交流について考える日」開催報告>

第1部 多文化理解講座（第3回）「市民目線で考える外国人とのコミュニケーション」

今回の多文化理解講座は、観光ボランティアガイドを長年務めていらっしゃる長野理一郎様、企業で外国人のインターンの受け入れや外国人社員のお世話をされている栗原晴美様を講師に迎え、外国人とのコミュニケーションを考えることをテーマにお話いただきました。

長野様には、前半は東京、世田谷を訪れる外国人観光客の傾向について、データとご経験に基づく考察をお話いただきました。新型コロナ禍後の需要予測から、下北沢が注目されているという分析をお聞きしました。また後半は外国人をおもてなしする際に配慮すべきことを「外国人あるある」のエピソードとしてお話いただき、観光で来日する外国人が何に興味があるのか、何に困っているのかを知ることができました。

栗原様には、ご自身の経験談とともに、パネラーとして参加していただいた4人の外国人社員の皆さん（タイ、インド、モンゴル出身、入社半年から1年）に、日本と自分の国との違いや、食について苦労している話などを聞き出させていただきました。日本で働き始めた皆さんが直接日本語で語ってくれる話はリアリティがあり参加者は興味深く傾聴していました。

参加者の皆さんからは「ボランティア活動のリアルな話が参考になった」、「外国人と触れ合いを持つ人からの話はたいへん興味深く、多文化を知る機会になった」等のコメントを頂きました。



第2部 にほんご交流会

「やさしい日本語」で交流する「にほんご交流会」を開催しました。アメリカ、中国、インド、モンゴル、韓国など様々な国と地域出身のルーツの異なる皆さん34名が少人数のグループに分かれ、様々な話題について会話をしました。新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクを着用し距離をとったうえでの会話となりましたが、どのグループも時間をオーバーする程、話が弾んでいました。最後に各グループで出た話題と感想を発表していただきました。

参加者の皆さんからは、「少人数制だったので、1人1人としっかり話すことができ、とても楽しかったです」、「多くの国の方のお話を伺うことができうれしかった」、「コロナウイルスで日本人の方々と出会って、話すきかいがあまりなくて、少し悲しかったが、交流会でたくさんできてうれしかったです」等のコメントをいただきました。

